

2024
4/1
より配信開始

くちはどう老い、 私たちは何をするのか

2024年3月10日撮影 収録時間：約4時間

歯はなくてはならない？ あったほうが良いのか？ なくても良いのか？

プログラム

1. 高齢者に要介護者に冷たい歯科の現状
2. くちはどう老いるのか？
3. 運動障害性咀嚼障害とは？
4. 8020達成者は誤嚥性肺炎リスク者となるのか？
5. 在宅診療で出会う高齢者のくちとは
6. 予後を見据えたかわり
7. 歯を抜く歯医者は良い歯医者とは？
8. 医療モデルから生活モデルへのパラダイムシフト
9. 最期まで寄り添う歯科医療

講師

菊谷 武 先生

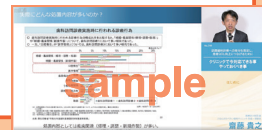
日本歯科大学 教授
口腔リハビリテーション
多摩クリニック 院長



ウェブ受講とは？

- ✓約5時間におよぶ来場セミナーの熱気をそのまま収録
- ✓1回のお申込みで、配信開始日から2025年2月28日まで受講可能
- ✓配信開始日以降は、ご入金確認後1~2営業日以内にご視聴スタート
- ✓効率的な倍速再生・見やすいチャプター付き

CM
動画



日本人の多くはおおむね10年ほどの自立を失った期間を過ごしている。演者は、外来受診の機会を奪われたこの時期の患者を多く診療している。この時期とこの時期に向かおうとしている高齢者における口腔の問題に、この講演ではフォーカスしたいと思う。

現場で起こっていることをまとめると、運動障害性咀嚼障害への配慮の欠如と自立を失った期間における歯科医師の不在問題である。

咀嚼機能にもっとも重大な影響を与えるのは、歯の欠損に基づく、咬合支持の喪失である。咬合支持の維持・回復には、歯を残すことと、補綴治療をすることであり、口腔インプラント治療は大きな力を発揮する。一方で、抗うことができない口腔の運動機能の低下によって起こった咀嚼機能の低下においては、運動機能に配慮した治療方針を検討しなければならない。口腔の運動機能の重症化に伴い、咬合支持の存在が咀嚼機

能に与える影響は相対的に低下する。すなわち、咀嚼機能にとって、咬合支持の存在はなくてはならないものから、あったほうが良いものになり、なくても良いものに変遷する。咬合支持の改善に偏重した歯科治療方針の策定は大きな問題を残す。さらに、歯科医師は医療者の中で要介護高齢者に最も冷たい職種と言って良い。多くの歯科医療は、外来受診が可能な時期においては深く関与するものの、外来受診が途絶えると、そのままに放置する。自立を失った10年もの長きの間、患者の口はどう管理され、どのように崩壊していくのか、もし、多くの歯科医師が観ることがあれば、歯科医療が大きく変化するものと考えられる。医療が疾患モデル一辺倒から生活モデルを取り入れたように、歯科医療においても大きなパラダイムシフトが起こることを期待する。

お申込み・詳細
はこちら



学際 歯科 検索

ウェブ受講料

テキスト付き

▶ 受講期間：4/1~2025.2/28

法人・個人会員

無料

申込不要

※法人会員施設の勤務医・全スタッフを対象

ウェブ会員

15,000 円 (税込16,500円)

一般歯科医師

35,000 円 (税込38,500円)

ウェブ会員新設キャンペーン!!

1セミナーの受講だけでも入会がお得です。
2024年開催 8セミナーのテキストが全て無料事前配布されます。

学際デンタルセミナー ウェブ会員
入会金無料キャンペーン中につき

入会金 年会費 受講料
0 円 + 18,000 円 + 15,000 円/1セミナー
(税込 19,800 円) (税込 16,500 円)

▶ 33,000 円

ご受講の流れ

1 ウェブでお申込み

<http://www.gakusai.co.jp/>

初回のみ
ウェブ利用登録(無料)が
必要となります

2 ご招待メール受信

入金確認後ご登録された
メールアドレスに
入場 URL、ログイン ID と
パスワードを送信します。

3 ログイン

ログイン ID とパスワードをご入力ください

ユーザーID
パスワード
ログイン

4 受講開始

受講期間中は
何度でも視聴いただけます

